

たまには テレビをかけて

中学年向け 2024年 春号



「トロリーナとペルラ」
ドナテッラ・ヴィリオット/作 長野 徹/訳
北澤 平祐/絵（岩波書店）

背が低く、丸顔で、黒くてふさふさな髪をしている野暮らし族。ある日、野暮らし族の女王さまに、お姫さまが生まれました。ところが長老たちは、同じ時期に生まれた金髪の赤ちゃんと、とりかえてしまいます！

黒い髪のトロリーナと金髪のペルラ。ふたりの性格はまったくちがっていました。おたがいに、とりかえられたことは知らずに育ったけれど、なんだかいごこちが悪くて…。

家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。むずかしいルールはいりません。家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあつたり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「おそうじをおぼえたがらない
リスのゲルラング」

ジャンヌ・ロッシュ＝マゾン/作 堀内 誠一/絵
山口 智子/訳（福音館書店）

リスのゲルラングは、ブナの林のなかに住む、11匹のきょうだいの末っ子。ランゲルはとても元気でかわいくて、だれもが好きにならざにはいられません。けれども…おそうじが大きい。

とうとう、おばあさんリスにおいだされてしまったランゲルは、なんとオオカミの背中の上におっこちた！大きな口でランゲルを食べようとしたオオカミですが…。ランゲルとおおかみのやり取りが面白い、ユーモアたっぷりな一冊です。



「ホームランを打ったことのない君に」
長谷川 集平/作（理論社）

ボクは出口墨。大逆転をねらって、バッターボックスに立った。2三振であとはない。ホームランを打とうと構えたが…結果はセカンドゴロ。しかもダブルプレーでそのまま負けてしまった。

落ち込んでいると、野球部出身の仙ちゃんに会った。仙ちゃんはぼくにホームランのすごさを語ってくれー。



「日本昔ばなしのことば絵本」
千葉 幹夫/監修（ナツメ社）

「したきりすずめ」で、おじいさんがえらんだけ小さな“つづら”や、「きんたろう」がかついでいる“まさかり”ってなんだろう？

昔ばなしにはよくでてくるけれど、今はあまり使われなくなった道具や言葉はたくさんあります。たくさんのイラストで「むかし話の世界が自分で見て手にとるようにわかる」と目ざしたこの本は、みんなのハテナを解決してくれるはず。家族みんなで読んでみてね。

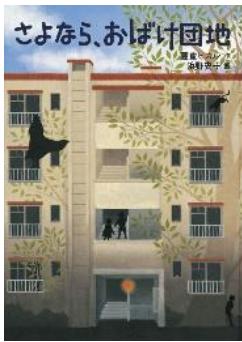


「ジョナスのかさ」

ジョシュ・クルート/文 アイリーン・ライアン・イーウェン/絵 千葉 茂樹/訳（光村教育図書）

むかしからロンドンは、雨の多いまち。でもね…1750年ごろまでは、だれもかさなんてささなかったんです！雨が降ったら、家から出ないか、馬車ででかけるか、ただぬれるだけか。

ところが、ジョナス・ハンウェイはそれが気に入らない。ある日、だれもさしていないかさをさしてみた！そんなジョナスをみんな大笑い。でも、30年後には…？



「さよなら、おばけ団地」

藤重 ヒカル/作 浜野 史子/画（福音館書店）

結衣たちが住む古い団地は、みんなに「おばけ団地」といわれています。なぜって、ちょっと怖いわざ話がいくつかあるんです。子どもを給水塔から突き落とす「黒マントの男」がいるとか、存在しない四号棟が夜中になるとあらわれるとか…。そのうわざ話って、ほんとかな？取りこわし予定の桜が谷団地でおこる、ちょっぴり怖くてじんわり心が温かくなる、5つのお話し。